

上下水道一体部門

応募事例名

持続可能な事業運営を目指した上下水道一体でのシナジー効果の発現
～行政、市民が協同して考える上下水道のこれから～

応募団体名) 富山市上下水道局

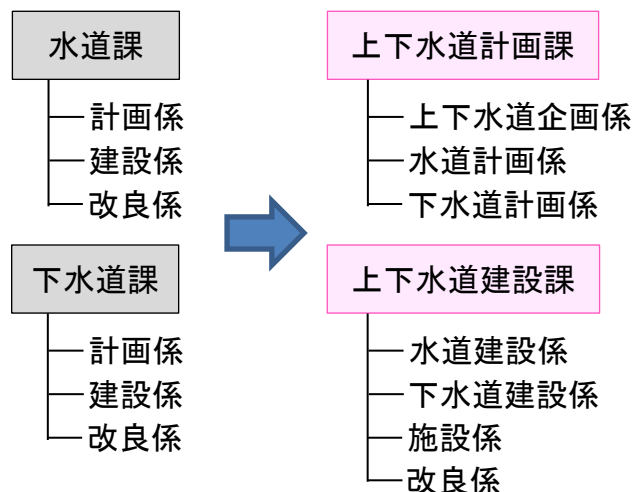
応募事例の概要

- 人口減少や施設の老朽化、将来的なマンパワー不足が見込まれる中、持続可能な事業運営を目指し、上下水道一体で事業を進める体制へ組織を再編
- 市民参加型の上下水道ワークショップを発足し、行政と市民が協同して、将来の上下水道の政策を考える枠組みを形成

応募事例の内容

行政の体制強化

・人的リソースを最大限活用し、上下水道が抱える課題に効率的かつ一体的に取り組む体制を構築



市民との協働

・対話型ワークショップや、浄水場や浄化センターの施設見学、利き水体験等を実施し、理解を促進

・理解を深めた市民とともに将来の上下水道事業の目指すべき姿を共有し、政策を考える



第1回ワークショップ(R.8.2.27)

PRポイント

○上下水道それぞれの良い取組を相互に共有することにより、上下水道に関連する政策的課題の早期解決につなげる(重要施設の耐震化、官民連携、広報など)

○ワークショップでは、参加者から、「上下水道について危機感を持って考えていけないといけないのかなと思った」、「上下水道はあって当たり前と思っていたが、考えが変わった」などの意見があり、意識の高まりがみられた。将来の上下水道事業のあり方を協同して考えることにより、合理的な政策の決定、市民の協力による円滑な事業の実施が期待できる

取組に関するエピソード

○本市では平成13年に上下水道の組織が一体となり、上下水道局が発足したが、これまでは上下水道それぞれで事業を進める体制であった。

現状、職員数はほぼ横ばいで推移しているが、将来の職員減少を見据えて、早期の対策が必要と考え、組織の再編を図った。

○今後の事業運営にあたっては、行政のみならず市民の理解や参加が重要と考え、岩手県矢巾町の事例を参考にワークショップを行っている。

そのほか、上下水道局だよりの発行や市民向け公開講座の開催など、市民が上下水道事業を知り、考えるきっかけとなる取組みを行っている。

上下水道事業管理者
前田 一士